

## 〔共済連だより〕

# フレッシュ獣医師

北部基幹家畜診療所 城谷 歩惟

昨年の3月に大学を卒業し、NOSA I岡山に就職して1年が経ちました。生まれも育ちも神奈川県で、友達も親戚もない岡山に一人飛び込むようにやってきた最初の数ヶ月はとても緊張していたのを覚えています。農場に行っても牛とどう接すればいいのか分からず、最初の半年はもどかしい気持ちでいっぱいでした。そんな私の空気を農家さん達はすぐ感じ取ってくれ、私があたふたしている間に笑いながら慣れた手つきで牛を捕まえ、ロープでくるくると保定していきます。農家さんのやり方を何度も見ながら、時には教えてもらいながら牛の追い方、起こし方、繋ぎ方に徐々に慣れていきました。

夏が過ぎた頃、一人で診療に行くようになって困った事に気づきました。牛の表情がまったく分からないという事です。もちろん体温や胃の動き、呼吸の音でおおよその判断をつける事はできますが、先輩獣医師達は牛の表情や全体の雰囲気を感じ取った上で治療方針を考えているようです。また、牛1頭1頭の事もよく覚えていて「これはあの時治療したやつだな、だいぶ良さそうだね」とか「あの牛は種ついたの?」とか、農家さんとすらすら話しができる事が信じられませんでした。農家のお母さん達も牛の表情や雰囲気の違いに敏感で、「顔つき」「耳のかんじ」「体の温かさ」「病牛は群れの中で1頭だけ離れてぼーっとしている」「耳と尻尾が垂れ下がる」など毎日観察しており、いつも健康な状態を見ているからこそ異変があるとすぐ気づけるのだそうです。

秋の中ごろ、お気に入りの牛ができました。とてもおとなしく、呼んだら近づき、頭を差し出してくれるような牛でした。小柄なクセに脂肪を溜め込み、私と同じで二重顎のなかなか愛嬌のある顔つきをしています。ボヨボヨちゃんと勝手に名前をつけてみました。産み前に太っている牛はた

いて産後の調子が良くないものですが、最初に会ったときのボヨボヨちゃんはいかにもその部類で、全てに無関心、淀んだ眼でいつも斜め左下を睨んでいました。畜主の懸命な介護と治療の成果により(中略)、ボヨボヨちゃんは次第に生き活きしはじめ、眼に輝きが戻り、嫌な事やうれしい事があると尻尾や耳を振り始めるようになった事に気づきました。先日この農場の搾乳立会に伺いましたが、彼女はパーラーに勢いよく入り、しっかり乳を出して颯爽と出て行きました。他の牛の治療でこの農家に行ったときも、ボヨボヨちゃんは「私」が来た事に気づき、ちょっと離れた所からじっとこちらを凝視しますが、名前を呼びながら近づくと、また注射をされるのではないかと慌てて群れの中に去っていきます。ボヨボヨちゃんに限らず、牛達は3-4回通えば人をけっこう覚えているようで、特に保定の仕方が苦しかったり、注射があまりにも痛い印象に残るようです。頭の良い牛は治療されている事が分かるらしく、2度目からはおとなしく捕まる事があります。牛達が私を覚えてくれるように、私も牛達の顔の違いや表情の変化が徐々に分かるようになり、また牛1頭1頭の個性を観察していると、その日の気分や表情に気づくようになったと感じています。病気になった牛達にしばらくぶりに出会った時、元気な姿を見せてくれると、牛の獣医になって良かったなぁと嬉しい気持ちでいっぱいになります。

冬が終わり、就職して1年が経ちました。先日、去年の春に診た子牛がすっかり大きくなって立派なお嬢さんになっていた事にびっくりしました。私も然り、「あいちゃん獣医っぽくなったね(K牧場)」「注射うまくなった(Y牧場)」「最初と比べれば天地の差(I獣医師)」など、有難い御言葉を頂ける様になりました。

これからも私を支えてくれるたくさんの人とたくさん牛に囲まれて、すくすくと成長していきたいと思えます。